

2026（令和8）年度

全国地域青年「実践大賞」

募集要項

全国各地で、青年たちが地域のために汗をかいています。住民との交流、伝統文化の継承、
地域課題への挑戦 ——その実践は、活動している本人たちには「当たり前のこと」でも、

他の地域の青年たちにとっては大きな学びになります。

そのつながりこそが、新たな実践を生み、地域を超えた絆をつくる力になると、

私たちは確信しています。

全国各地の特色ある実践を集め、互いに学び合い、

活動をより豊かにすること ——それを目的に、

2026（令和8）年度全国地域青年「実践大賞」を開催します。

あなたの「やりたい」を、ぜひ聞かせてください。

主 催

日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館

目 次

1. 対象（推薦される団体）……………	1	8. 表彰……………	5
2. 応募内容……………	1	9. 副賞……………	6
3. 推薦方法・推薦団体……………	3	10. 表彰式・学習会……………	6
4. 必要書類……………	3	11. 展示会 ……………	7
5. 締切日……………	4	12. 雑誌「社会教育への掲載……………	7
6. 審査……………	4	13. 応募・問合せ先 ……………	7
7. 発表……………	4	お申込書・提出書類がお手元がない方へ・	7

1. 対象（推薦される団体）

青年や青年団体が自主的に取り組む活動実践で、2026年1月から12月までに完了しているもの、もしくは、2026年度内に完了予定のものを対象とします。ただし、当該年度内であれば、応募時以前・以降にわたる継続的な活動や取り組みを推薦してもかまいません。一つの団体から複数応募することも可能です。

2. 応募内容

地域おこしや地域づくり活動や、いわゆる教宣活動「仲間の声や思いを引き出し広めるような活動、自分たちをPRする活動など」に通じる実践。

◇**実践例**：子どもや高齢者など多世代との交流を交えた実践、
地域の抱える課題に視点を置いた地域づくりの実践、
伝統文化や郷土芸能など、地域の芸能を舞台にした実践（芸能保存会事業など）、
地域からの要請に応える事業（スポーツ大会、文化祭等含む）、
地域で活躍する他団体と一つの目標に向かって協力し合った事業、コロナ禍における実践、
機関紙（誌）、ポスター、チラシ、活動時に作成したグッズ、ユニフォーム（Tシャツ）、映像、
WebサイトやSNS、その他

◇**過年度表彰実践**：昨年度の応募作品のなかから、優れていると審査された表彰をご紹介します。

（）内は実践された県名を表記しています。

・土佐市青年団（高知県）



↑2025 年度「実践大賞」受賞

地域の多世代が集う拠点となっていた地域食堂がなくなることを聞いた青年団が運営を引き継ぎ、手探りながら、多くの方に支えられ世代交流食堂なぶらっこを開催した。

・もりやま青年団（滋賀県）



↑2025 年度「準実践大賞」受賞

今年で 13 回目を迎える地元の小学生を対象とした職業体験・ものづくり体験ができる事業。地元企業や団員の好きや得意を活かしたブースを展開した。

・高知県青年団協議会（高知県）



↑2025 年度「田澤義鋪賞」受賞
県内で深刻な問題となっている放置竹林問題。伐採チームヒガサスを結成し、放置竹林の整備をするとともに、竹ごはんづくりの親子体験教室を開催した。

・西米良村青年会（宮崎県）



↑2025 年度「全国青年団 OB 会奨励賞」受賞
県内最少の 1000 人弱の村の伝統的大会。第 29 回大会では SNS 戦略の強化や本県出身の金メダリストをゲストに呼ぶ等、若者ならではのアイデアで 200 人の参加者が集った。

・柴田町青年会「雀の一声」（宮城県）



↑2025 年度「地域 PR 賞」受賞
青年団の活動資金の確保とともに、地元の特産品のゆずを PR するために地元の農家さんからゆずの収穫やゆずの素づくりを学び、カフェにて提供した。

2023 年度より、
新たに新設された審査員賞。
「景観賞」「継続賞」
「デザイン賞」「ユニーク賞」など…
受賞実践によって賞名も変化します

◇参考：より詳細な過去の受賞実践については下記 URL より報告書をご覧ください

・U R L:

<https://www.dan.or.jp/intro/jissen/2025houkoku.pdf>

・QR コード：右記



・インターネットで「日本青年団協議会」と検索し、「活動・事業紹介」タブから、「2026（令和8）年度全国地域青年「実践大賞」」をご覧ください。過年度報告書が掲載されております。

3. 推薦方法・推薦団体

推薦できる団体（推薦団体）は、原則下記のとおりです。推薦団体は、【4. 必要書類】を添えて日本青年団協議会事務局に期日までにメール（soshiki_kyosen@dan.or.jp）で送付してください。

- ① 日本青年団協議会または日本青年団協議会に加盟する道府県団
- ② 各都道府県教育委員会、各市区町村教育委員会

※自薦・他薦は問いません。

※推薦団体にお困りの場合やその他ご不明点は、日本青年団協議会事務局までお問い合わせください。

（日本青年団協議会 TEL:03-6452-9025 担当:水村）

4. 必要書類

※お手元に提出書類がない方は P.8 の公式 web サイトもしくは QR コードをご覧ください。

① 「推薦書」

【3. 推薦方法・推薦団体】に該当する推薦団体は、推薦書を記入し、推薦される実践のアピールレポートや出品表等の提出書類をお送りください。

② 「アピールレポート」

活動の詳細を自由に記述していただく書式、もしくは活動についての設問のある書式の2種類の書式のうち、どちらか一つの様式のみご使用ください。

アピールレポートの様式のうち、＜アピールポイント＞と

記載のページから数えて2枚以内でまとめてください。内容はできるだけ具体的に記述するようお願いいたします。写真や新聞掲載の切り抜きを添付いただいても構いません。

2025年度より、アピールレポートに
枚数制限を設けています。

写真や新聞掲載の切り抜き等を含めて

2枚以内でまとめてください。

限られた枚数の中で、

推しポイントを伝えましょう！

③ 「出品表」

アピールレポートのほかに、作品やチラシ等、制作物がある場合は、出品表にて作品の詳細を明記し、ご提出ください。

④ 写真2枚

活動の様子等がわかる写真をご提出ください。SNS や報告書の作成のため使用させていただきます。

※一つの推薦団体から複数実践を応募される場合は、一括申込書を別途お送りください。

＜アピールレポート記入の秘訣＞

自分たちの活動を文字に書くことが活動の振り返りもつなげます。活動している仲間と議論しながら、思う存分にアピールを考えてみてください。その中で、次年度以降、さらにより活動にするには、といった話もしていきましょう。第三者に向けて、その実践の内容や魅力を文章で伝えることをふまえ、適度な長さで読みやすい文章作成を意識しましょう。

○取り組んだ動機、目的、趣旨、ねらいを明らかにしてください。

○活動の具体的な経過を、団体内の動きと対外的な取り組みの両面から明らかにしてください。

○その活動によって、携わった仲間たち、参画した地域住民、地域社会にどのような影響や成果を与えたかを明らかにしてください。

○文章が独りよがりになっていないか、読みづらいところはないか、もう一度読み直して、自分で推敲してみましょう。人に伝わる文章をつくるうえでは、声に出して読んでみることも効果的です。

○過年度実践大賞で「大賞」を受賞している団体のアピールレポートを参考にしましょう。過年度報告書は日本青年団協議会 Web サイトからご覧になれます。

BIG CHANCE!!!!!!

審査員が判断する高評価のポイントです

5. 締切日

2027年1月18日（月）必着

6. 審査

応募いただいた実践は、日本青年団協議会役員・有識者で構成する審査会にて、2月に審査を行います。

7. 発表

審査会終了後、該当する団体および推薦団体（教育委員会含む）に直接通知するほか、日本青年団協議会公式Webサイト(<https://dan.or.jp/>)をはじめとする各種 SNS 上で公表いたします。

※WebサイトQRコードは右記



8. 表 彰

【大賞】

活動に常時または定期的に取り組む、地域に大きく貢献し、集められた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

【準大賞】

実践大賞に次いで優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

【奨励賞】

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。

【審査員賞】

審査員賞は、応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。賞名や副賞の内容は審査会で決定いたします。

【特別賞】

・田澤義鋪賞^{よしはる}

一般財団法人日本青年館より、明正選挙運動、地方自治、地域振興などに取り組む優れた成果をおさめた団体に授与されます。

・全国青年団OB会奨励賞

全国青年団OB会（青年団OB・OGの連絡組織）より、全国の青年団にとって励みとなるような組織の強化及び拡大に顕著な実績をあげた団体に授与されます。

・後藤文夫賞

一般財団法人日本青年館より、地域の伝統的な郷土芸能を青年が真剣にその伝承につとめ、青年団としての取組の中で意欲的である団体に授与されます。全国青年大会で郷土芸能分野に出場した団体を対象とします。

9. 副 賞

すべての受賞団体には賞状が授与されます。また「大賞」「準大賞」「特別賞」には活動奨励金が贈呈されます。

審査員賞の活動奨励金については、審査員賞の受賞内容や数により額が変わることがあります。

賞		授与団体	表彰状	活動奨励金	表彰数（最大）
大賞		日本青年団協議会	○	5万円	1
準大賞		日本青年団協議会	○	2万円	1
奨励賞		日本青年団協議会	○	1万円	3
審査員賞	審査会内で決定する	日本青年団協議会	○	審査会内で決定する	
特別賞	田澤義鋪賞	（一財）日本青年館	○	5万円	1
	全国青年団 OB 会奨励賞	全国青年団 OB 会	○	5万円	1
	後藤文夫賞	（一財）日本青年館	○	5万円	1

10. 表彰式・学習会

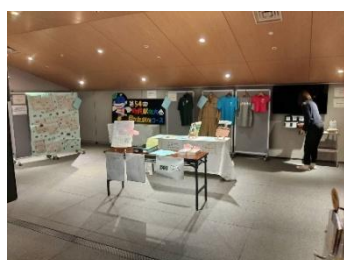
2027（令和9）年3月7日（日）に予定している、第71回全国青年問題研究集会終了後に実施いたします。また、昨年度に引き続き、表彰式に併せて大賞、準大賞受賞団体には、実践発表をしていただく学習会を開催予定です。詳細については、審査終了後担当者より表彰者または推薦団体にご連絡いたします。

BIG CHANCE!!!!!!

全国の仲間に向けて、自分たちの実践を
自分たちの言葉で発表できるチャンス

11. 展 示（予 定）

出品表の提出がある応募作品は、審査会終了後から表彰式までの間、日本青年館1階コンコースギャラリースペースにて展示いたします。



12. 雑誌「社会教育」への掲載

一般財団法人日本青年館発行の雑誌「社会教育」に、1号につき1件の受賞実践を掲載してご紹介いたします。ただし受賞件数によっては、すべての受賞実践を紹介できないこともありますので、あらかじめご承知おきください。また、紙面の作成にあたっては、当該受賞団体に追加でお話をお伺いする可能性もございます。

<雑誌「社会教育」について>

1946（昭和21）年7月、社会教育連合会（当時。のちに財団法人全日本社会教育連合会に改称後、2012（平成24）年に一般財団法人日本青年館と合併）から、月刊誌「教育と社会」として発刊。のち社会教育法の制定を期に、社会教育のいっそうの飛躍的展開を図るべく、1950（昭和25）年2月に「社会教育」誌へと改題。2021（令和3）年6月号で創刊900号を迎えた。社会教育に関する情報発信を行うとともに、不定期刊行物の編集発行や調査研究を行ってきた。各自治体教育委員会や社会教育関係者、その関係団体などを読者層の中心として、社会教育のハンドブックとして発行されている。

BIG CHANCE!!!!!!

社会教育に携わる多くの関係者に知ってもらえるこちらの特典は、入賞者のみが対象です

13. 応募・お問合せ先

日本青年団協議会 担当：水村（みずむら）
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館5階
TEL 03-6452-9025 E-mail soshiki_kyosen@dan.or.jp

以上

お申込書・提出書類がお手元にない方へ

お申込書・提出書類がお手元にならない場合は、日本青年団協議会公式 Web サイト

(<https://www.dan.or.jp/intro/>) にアップロードしております。

募集要項を熟読の上、ご提出いただきますようお願いいたします。

※WebサイトQRコードは右記

